

Shinsaibashi Reform Magazine

vol. 15

The future
of
the
fashion

The future of the fashion

“楽しい”という機能に包まれた服

Jipijapa = ヒピハパ加賀清一氏



これからファッションは
どう深化してゆくのか？

様々な角度からその未来を探る

The future of the fashion

今回は「Jipijapa=ヒピハパ」のデザイナー加賀清一氏
にお話を伺いました。

加賀氏がデザインする服は一見シンプルだが、吃驚する
ようなアイデアに富んでいるのが特徴、クールかつキュー
トな印象だ。また、素材、縫製仕様など加賀氏ならではの
アイデアは細部にまで及ぶ。巷のトレンドに捉われず、我
が道を直走る「Jipijapa=ヒピハパ」の服はファッション界
のみならず、多くのファンを唸らせている。今回から3回に
渡り、加賀氏に密着します。



加賀 清一 さん _ Kaga Seiichi

1950年東京生まれ。

はじめてファッションを知ったのは10代の頃通った東京・
下町の高架下。輸入された米国製品や海外のファッショ
ン雑誌に感化され、アメリカの最新ファッションを手に入れ
るため、返還前の沖縄まで出掛ける。20代で専門店の
バイヤーとなり、世界各地のショップや展示会などを回り、
たくさんのブランドや新人デザイナーたちと出会う。
服をデザインするようになったのは1980年頃から。
「スキップ&ピー」「インテリアエクステリア」などのブランド
に関わった後、1992年「Jipijapa=ヒピハパ」をスタート。

Q デザインは独学と伺っていますが

加賀__ 母親が日本髪のかつら、髪結いの職人でしたから、そんな兼ね合いもあって美容学校へ進み、その後、美容室へ勤務したのですが、半年で辞めました。やはり、どうしても服の道を諦めることができなかったんですね。とはいえ、洋服の仕事はしたいけど、どうすれば良いのか解らなかったので、夜なき、昼なき働き、お金を貯めて27歳のころ渡米しました。帰国後、原宿でショップをはじめたのですが、バイイングをしているうちに仕入れるものだけでは飽きたらなくなり、自ら服を作ってみようかなあと思い始めたのです。そこでまずは縫製の現場を知りたいと思い、見学に出かけました。見学することで、縫い子さんたちの仕事を知りましたが、幸いミシンを踏むのが好きでしたから最初は見よう見まねで、服づくりを始めました。どんなに格好の良いことをいっても、服は工業製品ですから、細部までミシンで縫えないと駄目なのです。服はアートではありませんからね。

加賀__ ですから僕は縫い子さんが仕様書を手に取った時、わかりやすいものでなければならないと思っています。そんなこともあって僕のデザイン画にはスタイル画とともに服を開いた平面図を書いて添えるようにしています。

Q なるほど。そういうお話を伺うと、畳むとぬいぐるみのようなになるダッフルバックの生い立ちが解るような気がします。



Q では工場へ行く前のプロセスはどんな感じで進めてゆくのですか？

加賀__デザイン画をパタンナーに渡した後、トワルを組み、そこからシルエットとディテールを詰めて、最終的に型紙に起こして行きます。

Q 御苦労も多いでしょうが、丁寧な手順を踏んで進んで行きますね。
ところで加賀さんの服はとても楽しいデザインですよええ～

加賀__僕の場合、遊びやユーモアがデザインのテーマになっていることが多いのです。服は機能しないとなりませんよね。その機能は防風や撥水、はたまたストレッチ性といったことだけじゃないんですよ。僕は人を楽しませる、笑わせるというのも服の機能として捉えているのです。オランダの歴史学者ホイシंगाが提唱した「ホモルーデンス」を知ってますか？「遊戯が人間活動の本質であり、文化を生みだす根源」だと言っているんですね。つまり僕が作る服はそうしたコンセプトの元に作られているのです。(大笑)

Q ハハハハハウケますね。それは「スキップ&ピー」の時代に遡りますか？

加賀__はい。ロンドンの蚤の市で穴だらけのセーターを買ってきてパッチワークにしたり、アンティークのスカーフでクレイジーパッチワークのシャツをつくったり、サインフラッグでジャケットを作ったりしましたね。

Q 聞いただけでその格好良さが浮かんでますねえ!! それでは今春の楽しい新作をご紹介しますか。

加賀__今春は「キレイなりペア」をコンセプトにしたデザインに凝っています。次のページのジャケットはドロップショルダーで、軽く羽織れる感じに仕上がっています。素材はキュプラと麻の混紡。ポケットなど力がかかる部分は実際傷みやすいじゃないですか。そんな訳で強度を増すといったニュアンスでリペアをしたかのようなデザインに仕上げました。



加賀__次はチェスターフィールドのデザインを踏襲したドロップショルダーのコート。



ジャケット同様、肩はドロップショルダーで、ポケットの部分をリペア風味に仕上げています。素材はナイロンです。



加賀__これはコックさんの白衣をモチーフにしたマオカラーのジャケットです。



ポイントはジャケットの打合せが
変えられるところ。コックさんが厨
房から客席へ挨拶に出るとき、汚
れている部分を内側に仕舞います。
つまり打合せが左右自在に変えら
れるよう、ボタンが移動できるよ
うにしています。



加賀__最後はシアサッカーのセットアップを紹介します。



こちらは生地を横どりにしています。横に採ることで
軽い着心地が得られます。ジャケットの裏側を見て
お解りの通り、接ぎめがないでしょ。



加賀__これはダーツだけでシルエットをつくっているからなのです。もう少しいいますとね、生地一枚の2パーツから出来ているということなのです。また同素材のパンツを展開していますが、刺しゅうを施しました。モチーフは解りますか？”松竹梅”の縁起ものです。(大笑)



次回はヒピハパの十八番シャツを紹介します。

To be Continued....



取材協力 加賀デザイン事務所

電話:03-3801-5874